

決算及び経営活動の現況

2024年11月6日
株式会社 東京エネシス



株式会社 東京エネシス

※本資料は、11月5日に公表した「決算説明資料」と同様の内容です。

I

2024年度中間期決算の概要

II

2024年度業績予想修正

III

トピックス

I

2024年度中間期決算の概要

II

2024年度業績予想修正

III

トピックス

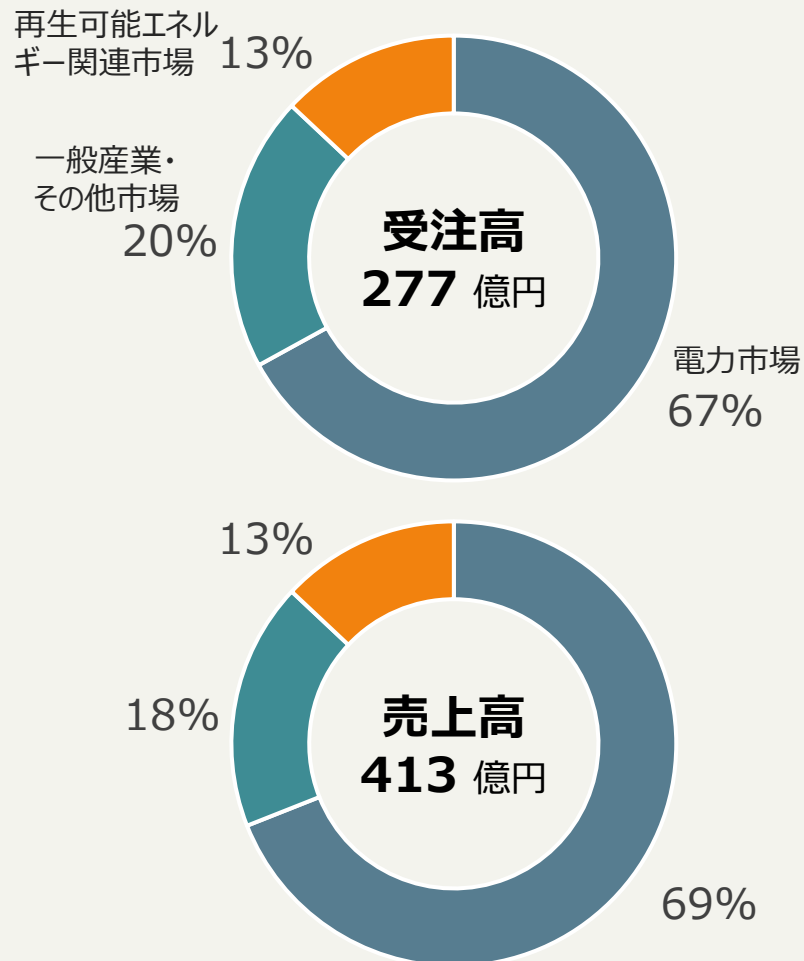
2024年度中間期決算の概要（連結経営成績）

（単位：百万円）	FY2023 中間期	FY2024 中間期	増減比率	ポイント（前期比）
受注高	27,790	37,827	36.1%	● 一般産業・その他市場では化学工場の設備増設工事や公共設備工事などで増加、再生可能エネルギー関連市場では太陽光分野を中心に増加、原子力分野の再稼働準備などで電力市場は増加、全体として大幅に増加
手持工事高	108,422	104,962	▲3.2%	
売上高	41,344	30,541	▲26.1%	● 原子力発電所の安全対策工事や火力発電所の新設が一巡し、福島第一原子力発電所処理水関連工事の完了などにより減少
営業利益	1,002	▲249	-	● 売上高減少による
経常利益	1,728	243	▲85.9%	● 為替変動によるデリバティブ評価損を計上 ● 再生可能エネルギー事業への投資による配当利益を計上
親会社株主に帰属する 中間純利益	818	630	▲23.0%	● 資産の効率化に向けた政策保有株売却による特別利益を計上

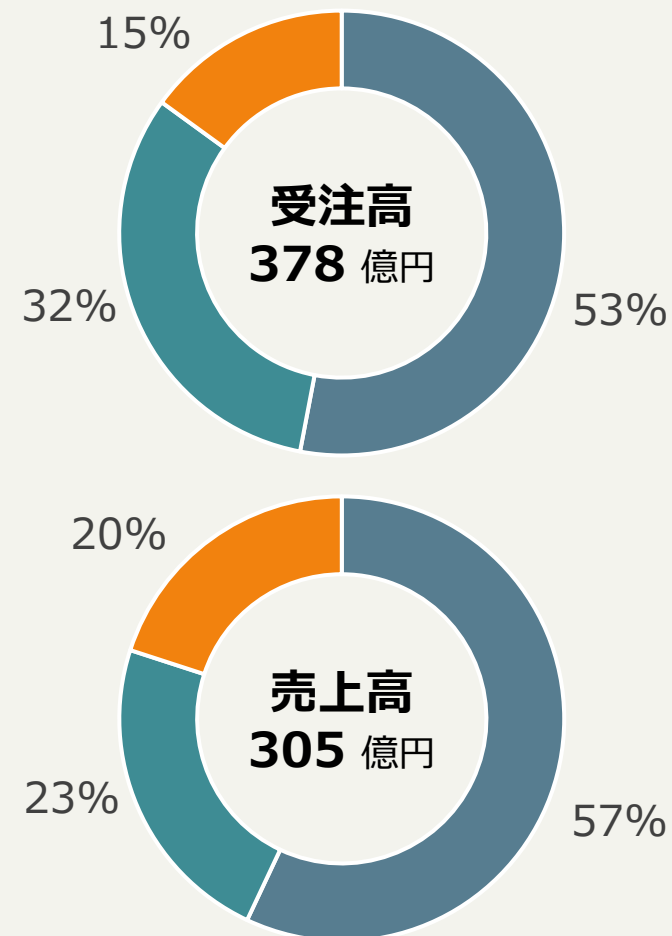
市場別の受注高・売上高について

電力市場に偏っていた事業領域を一般産業・その他市場と再生可能エネルギー関連市場へ拡大することで、3つの市場が均衡する収益源の多様化が進んでいる。

2023年度中間期実績



2024年度中間期実績



市場別の受注高・売上高について

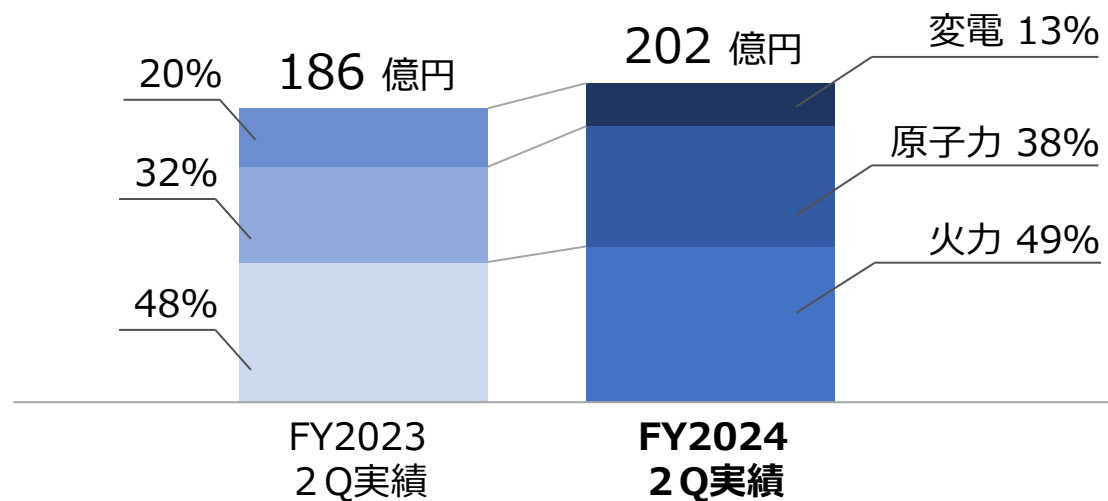
電力市場

【受注】 海外子会社の部品製造事業とのシナジーによる新たな火力発電所の脱炭素化改造などの大型案件や、原子力発電所再稼働準備工事などにより増加。

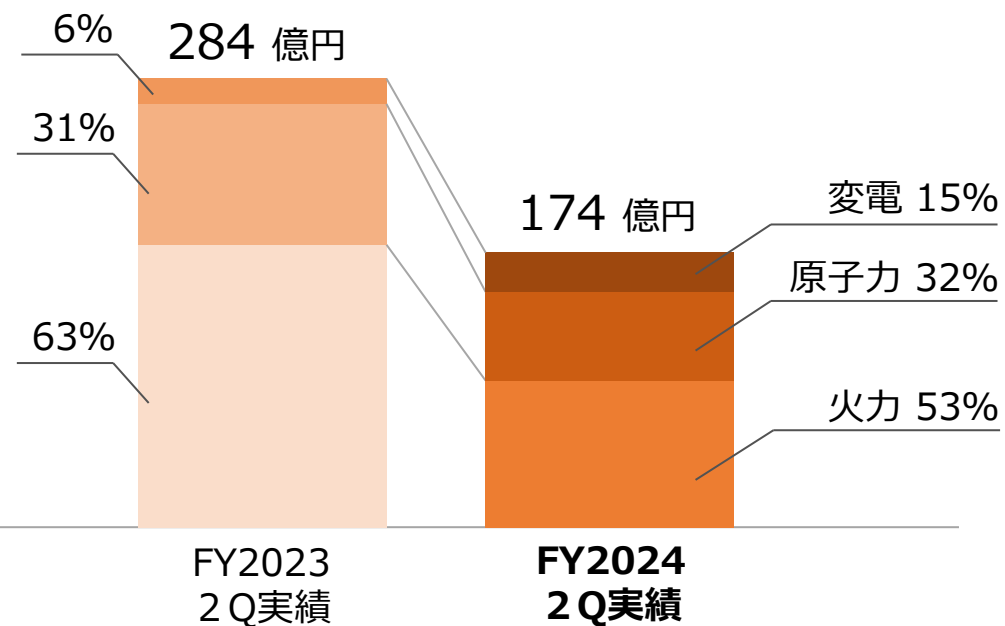
【売上】 火力分野は新設工事や事業継承した大型工事が一巡し、石炭火力の定期点検も端境期だったことから保守工事が縮小、原子力分野は安全対策工事の一巡や処理水関連工事の完了など、いずれも減少したが、変電分野は、設備新設・増強工事の対応や新規顧客開拓などにより堅調。

2Q実績

受注高



売上高



市場別の受注高・売上高について

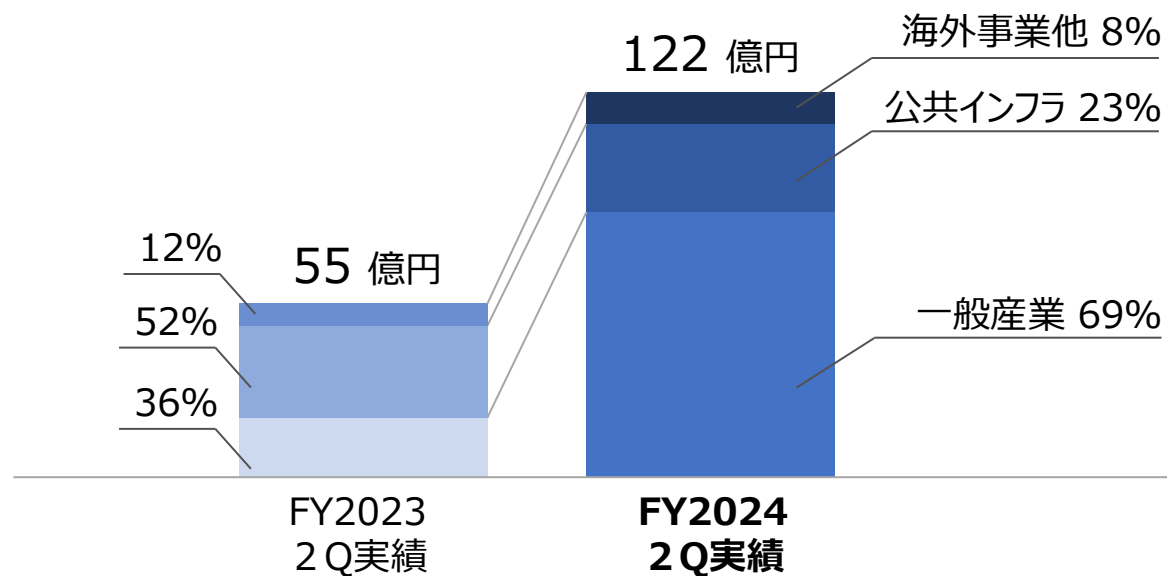
一般産業・その他市場

【受注】 電力市場での経験・知見を活かし、化学工場設備増設工事、製油所保修工事、公共施設の空調工事など、一般産業・その他市場では約2倍に拡大。全国に新設した支店を拠点にさらなる拡大を図る。

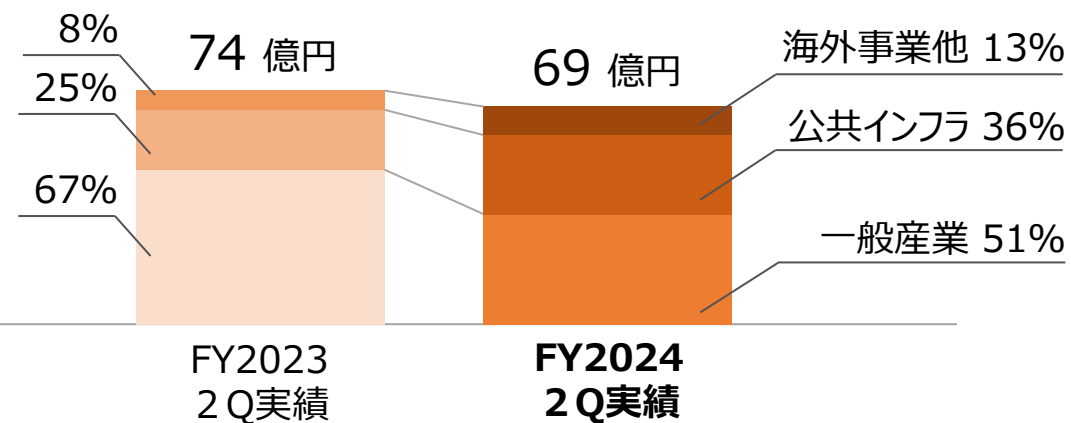
【売上】 前年実績に比べ微減であったが、通期では清掃工場建設工事、製油所保修工事、大型公共施設の電気工事などの進捗により、前年度を大きく上回る見込み。

2Q実績

受注高



売上高



市場別の受注高・売上高について

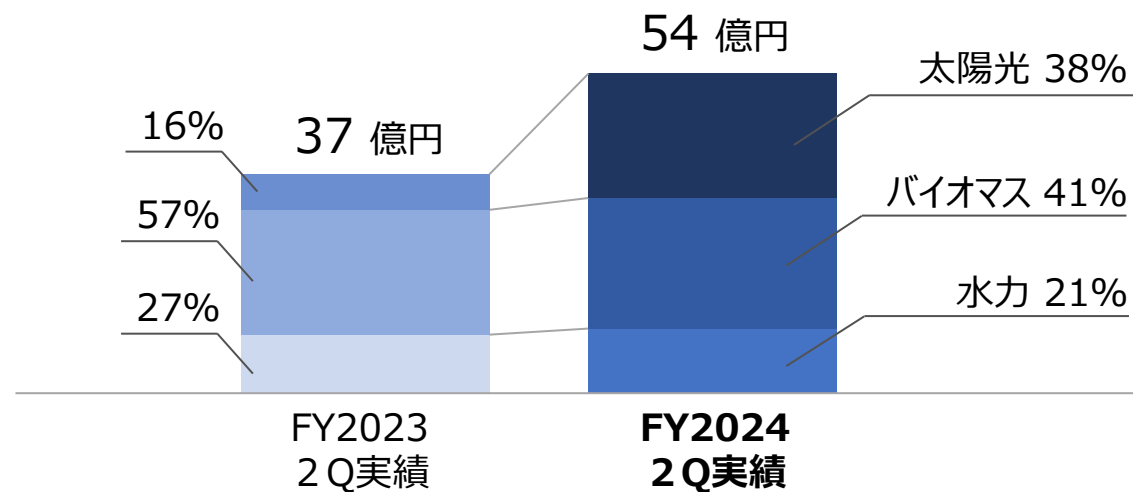
再生可能エネルギー関連市場

【受注】 水力・バイオマス・太陽光の各分野で前期比を上回り、特に太陽光分野では、オンサイトPPA電源設備工事やBCP対策工事、集中豪雨による災害復旧工事などで大幅に拡大。

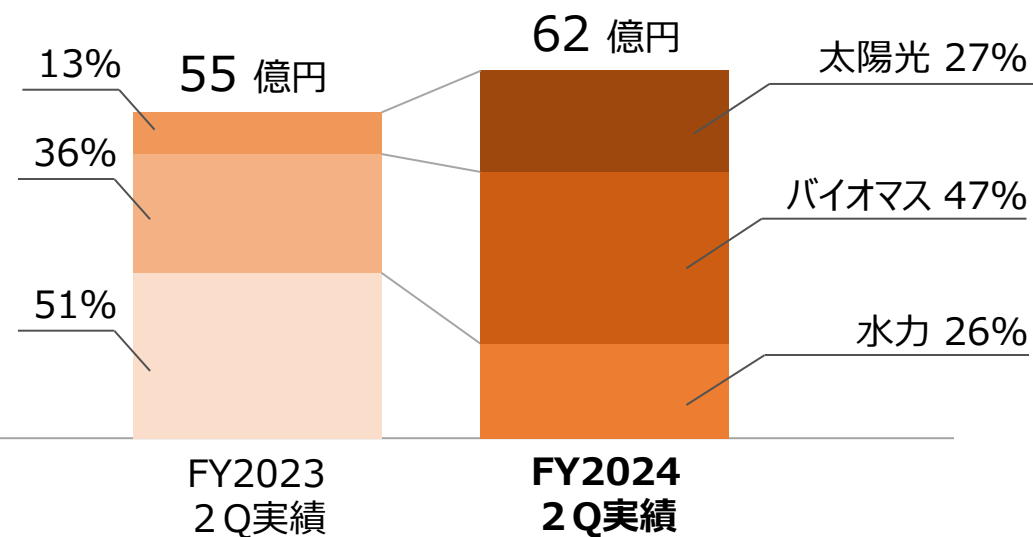
【売上】 水力分野は大型S&B工事の一部完了により減少したものの、太陽光分野とバイオマス分野により全体として増加、通期でも前年を上回る見込み。

2Q実績

受注高



売上高



I

2024年度中間期決算の概要

II

2024年度業績予想修正

III

トピックス

2024年度業績予想修正（連結）

【修正前】

売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益	中間配当	期末配当 (予想)	年間配当 (予想)
億円	億円	億円	億円	円	円	円
900	32	36	30	26	26	52

参考：ROE 4.5%

【修正後】

売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益	中間配当	期末配当 (予想)	年間配当 (予想)
億円	億円	億円	億円	円	円	円
680	10	15	15	26	26	52

参考：ROE 2.2%

収益源の多様化に向け、新規顧客や新規領域からの受注を順調に獲得する等、受注高は当初目標の達成を目指しているが、売上高については、手持ち工事が順調に進捗しているものの、当期受注分の売上貢献が少なく、前回予想を下回る見込み。
各利益面についても、売上高の減少により、それぞれ前回予想を下回る見込み。
なお、配当予想の修正はない。

2024年度業績予想修正（連結）

原因	分析	対策
当期売上高に繋がる 案件の不足	【ポートフォリオの変化】 ● 新規領域や新規顧客での受注工事は常駐現場とは異なり、短期で売上に繋がる案件が少ない ● 新規領域での知見不足や新規顧客との関係構築の遅れにより受注時期や施工時期が延期 ● 資機材の長納期化により、施工時期が延期	【営業活動の進化】 ☑ 営業組織の集約・統合 ・新規開拓営業要員の増員 ・全国に支店を新設し営業活動を効率化 ・営業ノウハウの蓄積・共有化 □ 顧客への設計支援による仕様決定の早期化
当期売上高に繋がる 案件の失注	【ターゲット案件の失注】 ● 新規領域での積算ノウハウ不足や調達資機材の価格競争力不足	【積算/調達力強化】 ☑ 積算に特化した組織を新設 □ 最新の知見を取り込む積算データベースの構築 □ 海外を含む調達ルートが多様化により、競争力がある資機材を調達
人手不足による現場 活動量の低下	【人手不足による制約】 ● 施工管理者不足による選別受注 ● 作業員高齢化などに起因する協力会社の労働力不足 ● 顧客の繁忙による計画期間の長期化	【労働力強化】 ☑ 新卒・経験者採用の強化（25年4月新卒入社予定者数：22～24年度平均比約2.2倍） ☑ 施工組織の集約・統合による流動的な人員配置 □ 基幹協力会社との早期工事情報共有による作業員確保の共同シミュレーション □ 顧客への設計支援や提案営業強化により早期受注

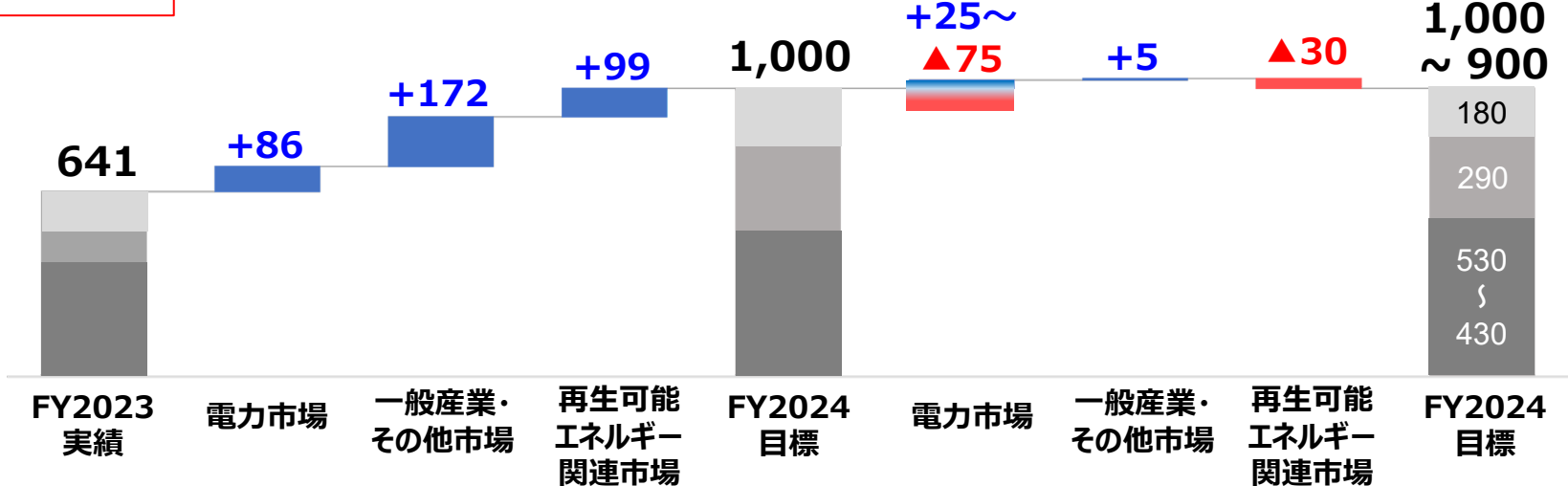
☑ はすでに対策を進めている項目

2024年度業績予想修正（連結）

[単位：億円]

- 再生可能エネルギー関連市場
- 一般産業・その他市場
- 電力市場

受注高



電力市場

発電所脱炭素化改造や原子力発電所再稼働準備工事などの受注が好調も、脱炭素オークション案件の入札結果による変動が想定される

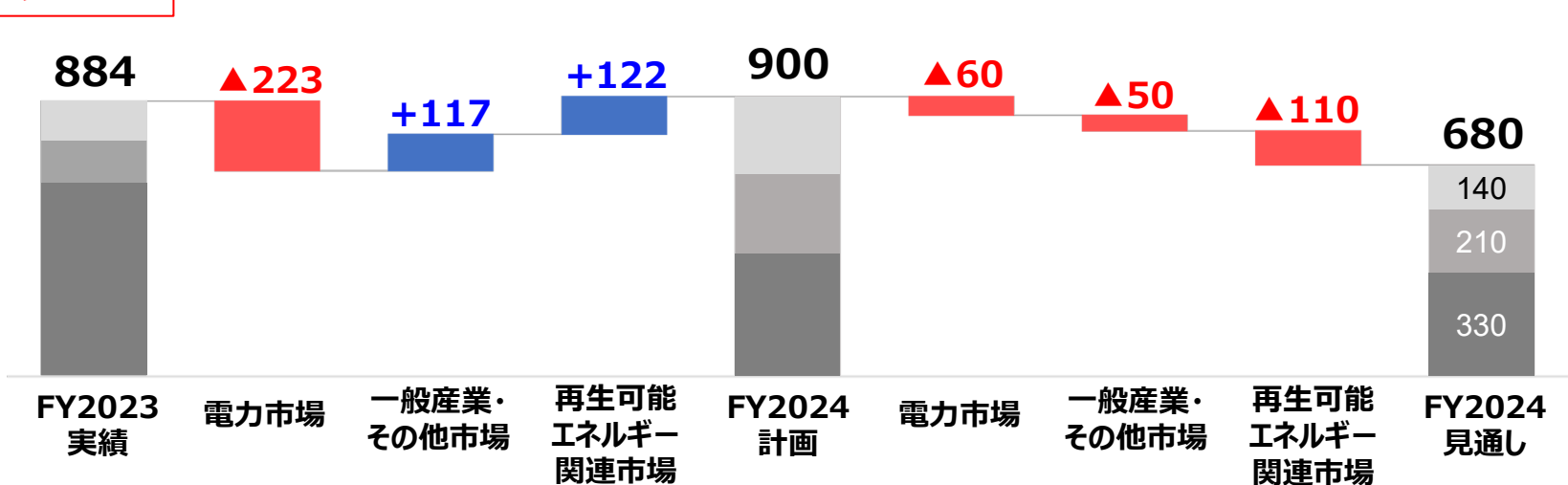
一般産業・その他市場

化学工場設備増設、公共設備工事など新領域の受注好調で計画通り推移

再生可能エネルギー関連市場

各分野で前期を上回るが、市場価格の状況から燃料販売事業を見直し

売上高



電力市場

当期売上に繋がる火力ボイラー改造案件の失注、変電所案件の施工時期延期で当期売上に繋がらず

一般産業・その他市場

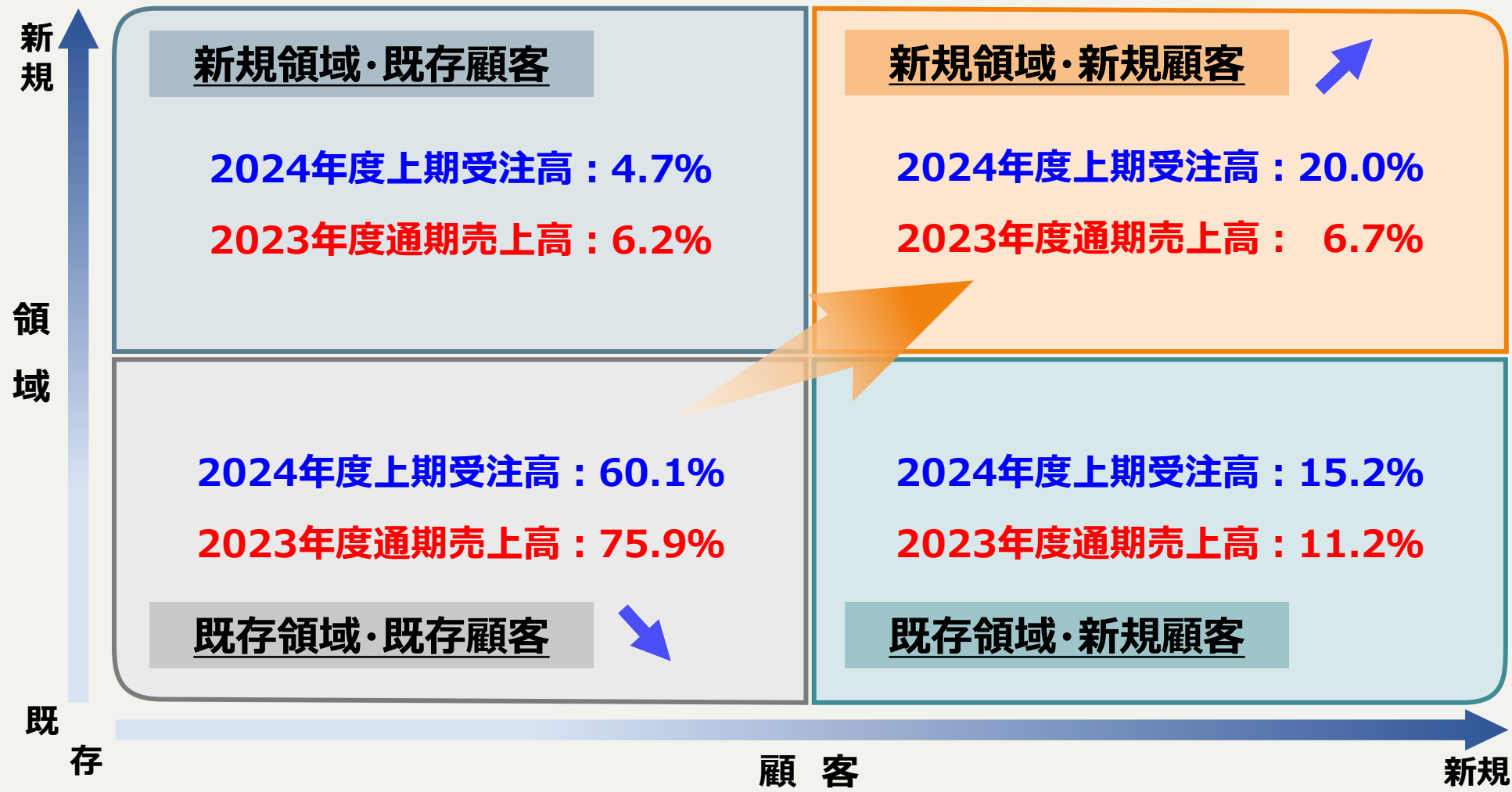
当期売上に繋がる公共インフラ・製鉄関連案件の失注、新規顧客との関係構築の遅れにより当期売上の案件獲得に至らず

再生可能エネルギー関連市場

太陽光案件の中止、当期売上に繋がる案件の失注、燃料販売事業の見直し

2024年度受注における領域・顧客の変化

- 収益源の多様化に向けて実施した組織改編の効果が出始めており、上期では着実に新規領域・新規顧客からの工事を獲得
- 下期受注分と併せて期末では2025年度以降に繋がる手持工事高を十分に確保できる見込み



2024年度中間期受注トピックス

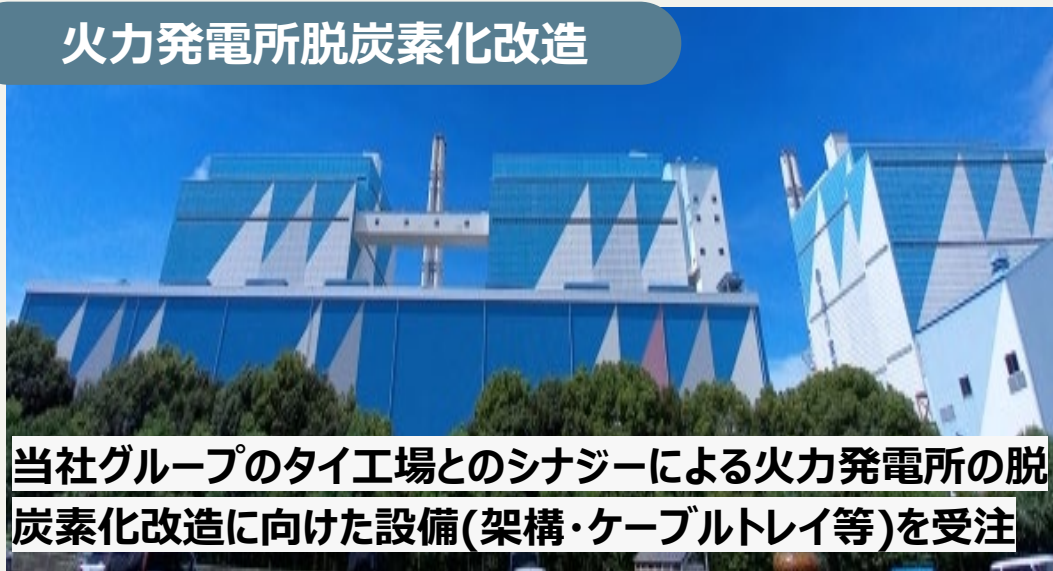
PPA：自家消費型電力販売契約

公共施設 空調工事



教育環境改善のため体育館など教室以外での整備も進んでいる公立学校の空調設備更新工事を受注

火力発電所脱炭素化改造



当社グループのタイ工場とのシナジーによる火力発電所の脱炭素化改造に向けた設備(架構・ケーブルトレイ等)を受注

PPA電源



再生可能エネルギーの活用による環境負荷及びコスト低減を両立できるPPA向け太陽光発電設備工事を受注

電力系統増強



データセンター新設などにより高まる電力需要に伴う変電設備新設・増強工事を受注

I

2024年度中間期決算の概要

II

2024年度業績予想修正

III

トピックス

トピックス

- ・日向バイオマス発電所が商業運転を開始
- ・技術・技能伝承のため研修にVRゴーグルを活用
- ・リサイクル燃料備蓄センターへ初の使用済燃料の輸送が終了
- ・「脱炭素先行地域」への取り組み
- ・「北茨城バイオマス発電所」竣工
- ・女川工事事務所の開設
- ・鳥取県境港市から感謝状を授与
- ・災害備蓄食品を認定NPO法人へ寄贈
- ・パラクライミング選手の応援を通じたダイバーシティ & インクルージョン推進の取り組み



株式会社 東京エネシス

【バイオ】日向バイオマス発電所が商業運転を開始

- 当社が5%の出資をしている日向バイオマス発電株式会社の日向バイオマス発電所（宮崎県日向市）が、2024年10月16日に商業運転を開始した。当社は、建設に携わりとともにオーナーズエンジニアリング業務を担当した。
- 本発電所は、発電容量5万kWのバイオマス専焼発電所で、発電電力量は一般家庭およそ11万世帯分の電力を賄うことが可能。発電した電力はFIT（固定価格買取制度）で九州電力送配電に販売している。
- 商業運転後は、当社自前の境港バイオマス発電所（鳥取県境港市）で培った経験と技術力を活かし、長期にわたる運転・保守業務（O&M業務）と技術的支援を担当し、本発電所の安全・安定運転に努める。
- 当社からは、本発電所で運転・保守業務を行うために18名の社員が就業しており、VRゴーグルを使った事前研修などにより、スキル向上を行った。



日向バイオマス発電所

【DX活用】技術・技能伝承のため研修にVRゴーグルを活用

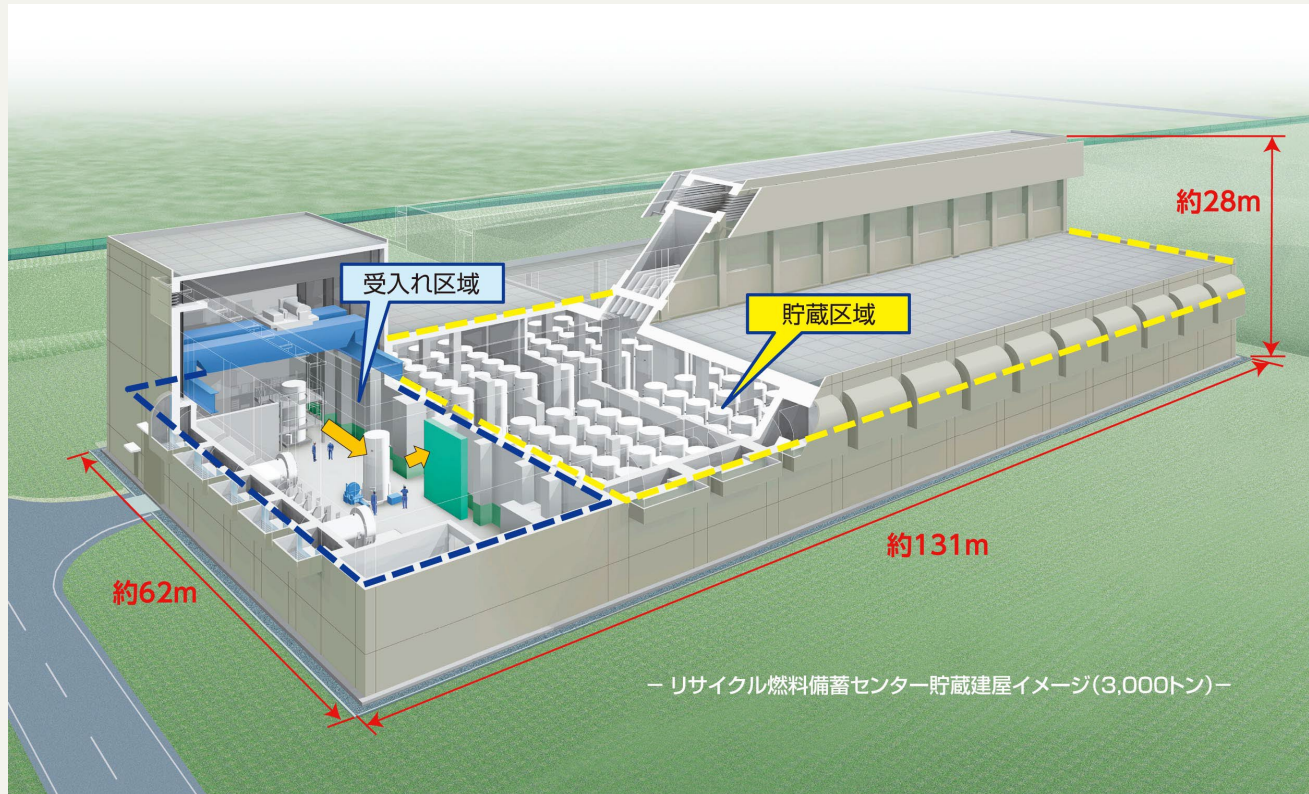
- 当社O&M事業部は、火力発電所やバイオマス発電所における運転（Operation）と保全・保守（Maintenance）の業務を担務しており、現場設備を安全・安定に稼働するために、O&Mの知識、技能、経験、ノウハウを伝承するため、VRゴーグルを活用した研修を実施している。
- これまでにVR研修を受講した社員は日向バイオマス8名を含む80名。
- この研修のメリットとして、講義の標準化、参加者の意欲高揚、場所・時間に捕らわれない、人件費や施設費などのコスト削減が見込まれる点である。
- また、特長として、コンテンツ撮影や動画作成を社員が行うため、現場のノウハウをしっかりと伝承できる。



VRゴーグルを活用した研修風景

【原子力】リサイクル燃料備蓄センターへ初の使用済燃料の輸送が終了

- 2024 年 9 月 26 日、東京電力(株)柏崎刈羽原子力発電所からリサイクル燃料貯蔵(株)リサイクル燃料備蓄センターへの使用済燃料を収納した金属キャスク 1 基の輸送が終了した。
- 本センターにおける初めての使用済燃料の受け入れであり、当社は当該金属キャスクの設置業務を担務した。
- 今後とも、安全を第一に取り組んでいく。



左：リサイクル燃料備蓄センター貯蔵建屋イメージ、右：貯蔵建屋内におけるトレーラーからの金属キャスクのつり上げ作業（リサイクル燃料貯蔵株式会社HPより）

【脱炭素】「脱炭素先行地域」への取り組み

- 群馬県上野村様は、2022年に環境省が公募した「脱炭素先行地域（第2回）」に選定され、本事業が開始された（500戸31施設：電力需要量 3,972,505kWh/年 全村の電力需要量の79.3% 2030年度終了）。
- 昨年度、当社は上野村様から太陽光設備 456.4kW 蓄電池設備 645kWh＜写真＞（6公共施設・村営住宅5棟・一般住宅13需要家）を受注し竣工した。
- 今年度も、引き続き太陽光設備 300kW、蓄電池設備 335kWh（5公共施設）を受注、2024年9月着工、2025年3月竣工予定。
- 当社は、地域社会と協力し、地域の課題解決とレジリエンスを図り、脱炭素社会の実現に向けた取り組みを推進する。



完成したヴィラせせらぎ（公共施設）の太陽光発電設備



完成した村営住宅の太陽光発電設備

【バイオ】北茨城バイオマス発電所竣工

- 当社が、EPC（設計・調達・建設）として一括受注し建設中であった、東京発電株式会社様北茨城バイオマス発電所建設工事（発電設備／容量：流動床ボイラ＋蒸気タービン／1,990kW）が2024年10月28日に竣工した。
- 当社自前の境港バイオマス発電所で培った経験と技術力を活かしたバイオマス発電所の建設工事である。
- 本事業は、再生可能エネルギー発電事業の拡大に向けて木質バイオマス発電事業を推進するとともに、地域の間伐材を燃料とすることで林業との共存共栄を実現させ、地域に根ざしたエネルギー事業である。



北茨城バイオマス発電所



北茨城バイオマス発電所 竣工式典の様子



【原子力】女川工事事務所の開設

- 当社は、お客さまのニーズ、ご要請に対して一層迅速・確実に対応すべく、2024年4月の社内組織の改編に伴い、女川工事事務所を新たに開設した。



開所式および安全祈願祭



女川工事事務所

【地域貢献】当社が鳥取県境港市から感謝状を授与

- 「境港バイオマス発電所」（当社100パーセント出資子会社「合同会社境港エネルギーパワー」運営）は、境港市、地域の皆さま方のご理解とご支援により、2022年10月の営業運転開始以降、順調に稼働している。
- 地域の皆さま方への感謝の意を込めて、境港市が進める「3つの港と水産・観光資源を生かしたまちづくり事業」に対して寄附を行い、境港市から感謝状をいただいた。
- 当社は、境港市が掲げる「ゼロカーボンシティ」宣言に貢献すべく、引き続き脱炭素社会実現に向けた取り組みを進めていく。



伊達市長から感謝状の授与



境港バイオマス発電所全景

【社会貢献】災害備蓄食品を認定NPO法人へ寄贈

- 消費期限を迎えた災害発生時用の備蓄食料をフードバンク「認定NPO法人セカンドハーベスト・ジャパン」様に寄贈。
- 当社は引き続き、持続可能な社会の実現を目指し、社会課題解決に取り組んでいく。



災害備蓄食品寄贈の様子

【寄贈品】

- ・マジックライス（550食）
- ・乾パン（480食）

【寄贈先】

名 称：認定NPO法人セカンドハーベスト・ジャパン殿
概 要：日本初のフードバンクを運営し、食品メーカーや生産者、企業、個人から余剰食品を引き取り児童養護施設やDV被害シェルター、フードパントリー団体等へ安全に分配する取り組みを進めている団体

【ダイバーシティ＆インクルージョン推進】～パラクライミング選手の応援を通じた取り組み～

- 当社は、社員一人ひとりが意欲をもって新たなチャレンジが出来るよう取り組んでいる。
- このたび、パラアスリートである社員1名を採用し、同社員の目標管理やモチベーション向上のノウハウについて、社内で公演イベント等を実施する予定。
- 当該社員は、2024年10月に2024年度パラクライミングジャパンシリーズ（第1戦）に出場し、AL1（下肢機能障害）のクラスに参加し、予選3位で通過、決勝で見事準優勝に輝いた。
- パラクライミング選手の応援を通じてダイバーシティ＆インクルージョン推進に取り組んでいく。



パラクライミング競技



出場選手と応援に駆け付けた眞島社長と社員

免責事項：

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいておりますが、当社として約束する趣旨のものではありません。

また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

なお、本資料は、投資家判断の参考となる情報提供を目的とするものであり、当社株式の購入や売却を勧誘するものではありません。



暮らしのより確かな基盤をつくる

ENERGY×SYSTEM

地域へ、社会へ、そして未来へ